広告
【企画・制作】
㈲プランニング
097-538-3600

肺がんを考える

北海道大学病院 呼吸器外科

加藤 達哉 教授

●肺がんとは

肺がんは、肺の肺胞や気管支などの一部の細胞ががん化したもので、毎年約12・6万人の方が肺がんと診断され、約7・5万人の方が命を落としています。進行するにつれ、血液やリンパの流れにのって、リンパ節や他の肺内、脳、骨、肝臓、副腎などに転移します。

●原因と予防法

肺がんの原因の1つに喫煙が挙げられ、自分が煙草を吸わなくても受動喫煙で副流煙にさらされることにより発症リスクが高まります。予防のために最も重要なことは煙草の煙を吸わないことです。しかし、近年は喫煙と関係のない肺がんも増えています。

●最先端の治療方法

①低侵襲手術の進歩

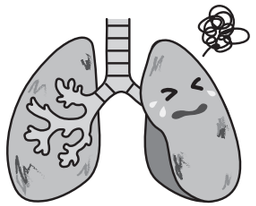
早期の肺がんに対しては、2‐3つの小さな傷のみで手術を行う胸腔鏡（きょうくうきょう）手術が行われますが、症例によっては傷を1つに集約した究極の低侵襲手術＝単孔式手術も行われるようになってきました。また、現在ロボットによる手術も多く行われています。ロボットの鉗子は体の中で自由に曲げることができ、視野を拡大した3D立体視で非常に繊細な手術ができます。

②肺機能を温存できる区域手術

2cm以下の小型肺がんに対しては、従来の肺葉（右の肺に3つ、左の肺に2つある部屋）全体を切除するよりも、肺葉をより細かく分けた区域で切除をする方が長期的な予後がよいことが報告されました。適応となる場合は十分根治性はあると考えられるうえ、呼吸機能をより温存することができる治療法です。

③進行肺がんに対する集学的治療

進行した肺がんの場合は、化学療法、免疫療法、放射線と手術を組み合わせた集学的治療により、治療成績の向上を目指します。ある種の肺がんに対しては、術後に抗がん剤に加えて免疫療法を行ったほうが再発や死亡のリスクを下げることが報告されています。逆に、手術前に免疫療法と抗がん剤と組み合わせて行うネオアジュバント治療も保険認可がおり、これにより手術適応のなかった患者さんも切除可能となる可能性があります。



社会医療法人
製鉄記念室蘭病院
〒050-0076 室蘭市知利別町1丁目45番地
電話 0143-44-4650（代）

社会福祉法人
北海道社会事業協会 小樽病院
（略称 小樽協会病院）
院長 宮本 憲行
〒047-8510 北海道小樽市住ノ江1丁目6番15号
TEL 0134-23-6234 FAX 0134-33-7752
https://www.otarukyokai.or.jp/

社会医療法人
恵佑会札幌病院
理事長 高橋 宏明 病院長 久須美 貴哉
〒003-0026 札幌市白石区本通9丁目南1番1号
TEL 011-863-2101 FAX 011-864-1032
URL https://www.keiyukaisapporo.or.jp/

医療法人社団 豊生会
東苗穂病院
院長 星野 豊
〒007-0803 札幌市東区東苗穂3条1丁目2-18
TEL 011-784-1121
https://www.houseikai.or.jp/hospital/